一般質問

（4面～7面）

12月4日、6日、7日、8日

※原稿は市長部局の答弁も含めて各議員が作成しています。

会派の略称

（自民党小金井）	自由民主党小金井市議団
（日本共産党）	日本共産党小金井市議団
（公明党）	小金井市議会公明党
（市議会民進党）	小金井市議会民進党
（リベラル保守）	リベラル保守の会
（生活者ネット）	生活者ネットワーク
（緑・市民自治）	緑・市民自治こがねい
（改革連合）	改革連合
（市民会議）	こがねい市民会議
（小金井自民）	小金井自由民主

学童保育・待機児童・病児保育の対策を問う

岸田正義（市議会民進党）

❶学童保育大規模化について。(ア)来年度入所申込みが千人に届く可能性は。(イ)利用率の伸びを考慮した計画の見通しを。(ウ)全員入所維持のためにあらゆる手段を模索して対策を示すべき。

児童青少年担当部長　(ア)可能性はゼロではない。(イ)数字の変更も視野に入れて対応する。

市長　(ウ)全員入所維持の考えのもと、しかるべき時期に報告。

❷待機児童ゼロの実現への対策について。待機児童の半数は0歳児である。育児休暇明けでは入所できないので、泣く泣く0歳児からの申込みが増えている現状は親子にとって不幸である。(ア)10月現在の待機児童数と解消策は。(イ)0歳児の希望率の伸びを加味して計画見直しを。(ウ)1歳児枠の積極的拡充を。

子ども家庭部長　(ア)225人。合計212人の定員増を図る予定。(イ)実績等を踏まえ適切な確保数となるよう協議している。(ウ)新規保育施設へ状況を説明している。

❸病児保育について。近隣8市で実施できていないのは小金井市だけという現状は大きな課題。難しい課題だからこそ市が旗を振って積極的に動き、早期に病児保育施設を開設すべき。

子ども家庭部長　必要な施設であり、開設に向けて取り組む。

平成27年のみなみ学童の建て替えを最後に増設の計画はなく、学童の大規模化は喫緊の課題

小・中学校の急激な児童生徒の増加への対策

中山克己（自民党小金井）

三小は児童数723人と突出し、将来的に緑中も増えると思う。一部の学童保育所で大規模化の課題もあり教室の不足等も予想される。児童生徒の急激な増加への対策は今から着手の必要がある。教育施設整備基金への計画的な積立てを強く要望する。現状と今後の対策は。

学校教育部長　そのような現状があると認識はしている。学校教育法施行規則の学校規模が標準から外れている学校は、三小、緑中、東中である。今後も生徒数が増加する予測。対策の必要性は十分認識している。学区の見直しは丁寧に検討中であり、教室の増設等も進める必要がある。

■その他、柔道整復師の更なる活用、保育園用地の固定資産税無償化、市内美化の一環として灰皿設置モデル地区の創設、第二庁舎の賃貸借契約の更新、女性活躍の環境整備の一環として民間ダイバーシティの取組の採用、市制施行60周年記念事業でのプロジェクション・マッピングの活用、市長の視察や他市との意見交換、さくらポイント満点カードによる介護支援ボランティアポイント制度の差別化について、質問と提案をしました。

赤ちゃんふれあい授業を行わないか

紀由紀子（公明党）

❶清瀬市、東村山市、八王子市等でも行っている「赤ちゃんふれあい授業」で、赤ちゃんの持つ生きる力や育つ力を子どもたちに感じてもらいたい。乳児期があって今の自分があることや、自分が大切な存在であることを知ることは自己肯定感につながり、どの子も大事な人であると気付くことができる。(ア)赤ちゃんの持つ力についての認識はどうか。(イ)子どもたちの自己肯定感についてどのように認識しているか。(ウ)「赤ちゃんふれあい授業」を行わないか。

学校教育部長　(ア)赤ちゃんを抱き、ふれあいを通し人のぬくもりや温かさを感じ、命の重たさや素晴らしさを実感することができる。(イ)日本の若者の自分への満足度は他国に比べ低い。(ウ)小金井市でどのような形で実施できるかを研究したい。

❷平成28年8月に東京メトロ銀座線青山一丁目駅で、盲導犬を連れていた視覚障がい者の男性がホームから転落し、死亡した事故が起こった。悲惨な事故を防ぐ対策は急務である。転落防止のため、駅へのホームドア設置を推進しないか再度問う。

都市整備部長　JR東日本には要望した。近隣市との連携を含め、取組を模索したい。

赤ちゃんを大事そうに抱く男子生徒（平成28年11月4日都政新報より）

前原町、丸山台集会所の建て替え

露口哲治（小金井自民）

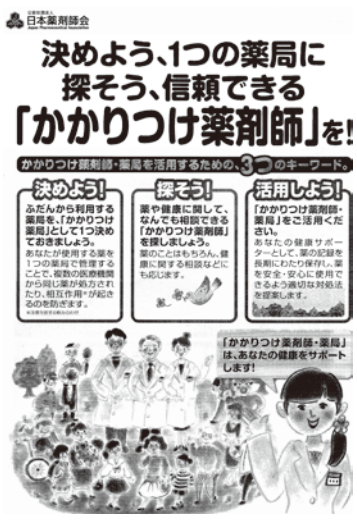
前原町地域の公共施設は、実質、丸山台集会所のみである。狭い、古い、2階の畳の部屋は使いづらい、さらにトイレの環境も劣悪なのが丸山台集会所である。前原町地域には、児童館も公民館もなく、移動図書館も廃止された。ココバスの走らない「交通不便地域」と、通勤・通学、買い物に難儀な坂だけはしっかりとある。丸山台集会所は、前原町地域で子どもたちや高齢者はもとより多くの市民が活動する場所で、町会の総会や、防災、地域包括支援センターなど重要な話を伺える唯一の場所である。公園との一体利用は、坂下地域の大きな拠点として有効利用が可能であり、集会所と児童たちの遊び場やイベント広場公園としての利用は合理的である。(ア)集会施設と公園と一体的な考えでの建設計画はできないか。(イ)全市的な施設建設、改修計画の中、優先的な大規模改修事業に値しないか。

市民部長　(ア)建て替えを行うときには、公園との一体利用を研究する。(イ)丸山台集会所は、地域のニーズは高く、古い施設であるので建て替えの優先度は低くはないが、今後、市の公共施設全体の考え方を踏まえ、適切な対応を考える。

健康全般の相談が可能かかりつけ薬剤師とは

宮下　誠（公明党）

平成28年4月から「かかりつけ薬剤師」制度が始まっている。患者自身が信頼のおける薬剤師を選び、服用している薬のことを把握してもらい、薬局の営業時間外でも、いつでも相談や適切なアドバイスを受けることができる。指名された薬剤師は、薬を処方した医師とも連携し、服薬状況や体調の変化を把握し、必要に応じて医師に報告、相談をする。また、必要に応じて患者宅を訪問し、薬剤管理や服薬指導を実施する。患者として発生する費用は、3割負担の場合、従前と比較して60円から100円程度の増である。この制度について、市民に広く周知すべきでは。



薬局で配布されている「かかりつけ薬剤師」の案内書

福祉保健部長　複数の病院から多種の薬を処方されるケースもあり、飲み合わせの悪い薬を知らずに服用してしまう危険性がある。この制度は、薬の専門家である薬剤師が一人ひとりの薬の管理を行い、服用状況を把握し、他の薬との飲み合わせや副作用などの相談、健康全般に関する助言なども行うもの。市報、ホームページ等での周知を検討したい。

■その他、医師会や社会福祉協議会の取組等を紹介しつつ、地域包括ケアシステム全般について、市の取組を質問しました。